

# 個人準優勝、五位入賞の大健闘 関東大会相撲



6月11日に桐生市相撲道場で、相撲競技の関東高校大会が行なわれ、高崎から個人戦65kg級に出場した吉田智哉くん(3の7)が見事準優勝し、増田恭也くん(3の4)も同じ65kg級で五位入賞という成績をおさめた。

団体戦では、高崎は神奈川県立向の岡工業高校に1-4で敗れ、一回戦敗退となった。

## 技をかける高崎の選手

今大会で入賞した、吉田くん、増田くんはともに柔道部に所属している。柔道部では伝統的に、柔道に必要な足腰の強さを養うため、相撲にも取り組んできた。吉田くんの得意技である「下手投げ」も、柔道の技の「内股」を応用したものとされている。

今回、準優勝した吉田くんはインタビューを行なった。まず、今回の関東大会への意気込みを聞くと、「自分の本職は柔道であり、相撲は

気持ちの強さを鍛えるために取り組んでいる。相撲で自分よりも体の大きい相手に向かっていくことで、柔道にも通じる精神的な強さを身に付けることができる。今回の大会にもそうした意気込みで挑んだ」と振り返った。

次に、試合に勝つための作戦や練習については、「個人戦は階級ごとに戦うので、自分よりも体の大きい相手が少ない。上の階級の選手と当たることがある団体戦に比べて、肉体的にも精神的にも負担が軽かった。しかし、相手は相撲が本職の選手であるため、相撲の技術で劣る自分が勝てる確率は低い。そこで、まわしをつかんで自分の専門である柔道の技をかけることを意識し、自分に有利な展開をつくっていくことにした。そのためにも、まわしをとる練習に時間をかけた。自分の得意分野で戦えたことで、準優勝

することができたと思う」と語った。

また、今後の目標や展望については、「高校三年間は柔道と相撲という二つの競技を続けてきたが、今後も続けていく競技は柔道だけだと思う。この三年間の相撲で身に付けた、自分から相手に向かっていく精神を大学やこれからの柔道人生に活かしていきたい」と話した。

## 文芸部が快挙 全国俳句甲子園出場

俳句甲子園の地方大会が6月11日に群馬県労働福祉センターで行なわれた。高崎は見事優勝を掴み取り、8月19日から22日にかけて愛媛県松山市で開催される俳句甲子園の全国大会に出場することとなった。そこで文芸部の部長である吉野貴翔くん(3の5)に取材を行なった。

まず、地方大会に関して聞くと、「強豪校の2校を抽選で引いてしまったがそれが奮起する要因となり、金澤英明くん(2の1)の最優秀句獲得や、白熱したディベートに

つながった。また、予想問題集を用意せずに臨んだが、強豪校2校はしっかりと用意しており、相手によってはそれを導入しようと思った」と振り返った。

俳句甲子園全国大会については、「勝利を収めることができればもちろんうれしいが、まずは俳句を通じた交流が生まれればよいと思う。また、全国大会前後には本部主催のパーティーがある。高生は女子高生に不慣れな場合があるので、頑張っていきたい」と抱負を語った。(畑)

最近、他者の目を気にして、「自分らしさ」を出さない人が多くいると思う。自分が他者と違うことへの不安、恥ずかしさなどから、自分がしたいことをしない。このままではいつになっても、他者中心の生活を過ごすことになり、「自分らしさ」は出せない。ここでいう「他者の目を気にする」とは、他者と協力することではなく、他者に迷惑をかけないようにすることでもない。主体性に欠けた保守的な行動のことだ。

私の弟の中学校では、30度を超える暑さであっても、ほとんどの生徒が集会などで長袖を着ている。その理由は

「誰も半袖になっていないから」であった。人によって、暑さの感じ方は異なるにしても、30度を超える暑さで半袖にならないことは、「他者の目を気にしている」としか言えない。「自分が涼しくなり

## 論説

### 「自分らしさ」とは

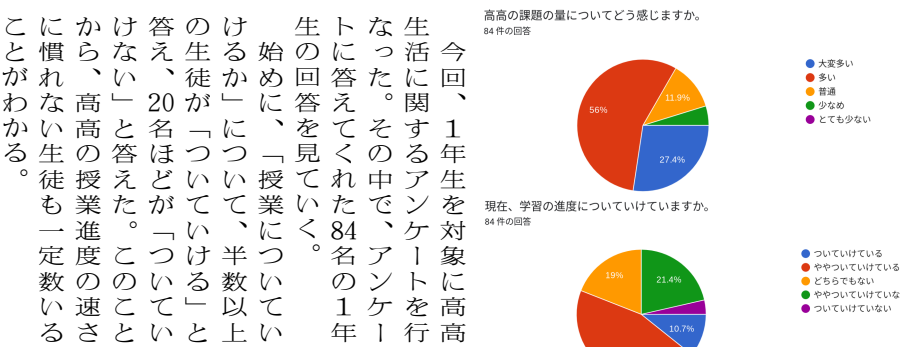
「自分の体調」のほうを優先すべきだろう。

このように日常の様々な場面ですら、他者の目を気にしてしまっている。そして、自分の意志と反する行動を起

こす。確かに、他者に合わせることが自分から非難されず、楽である。しかし、他者に合わせ、自分に正直にならなくて、生きやすいだろうか。その社会は楽しいだろうか。他者から何を言われても、他者の目が気になっても、法を犯さない限り、「自分らしさ」を出すべきだ。そして、私たちは「自分らしさ」を出している人、出そうとしている人を絶対に否定してはいけない。「自分らしさ」を出し、他者が持つ「自分らしさ」を尊重することができれば、誰もが生き生きと暮らせる社会になっていくだろう。(横塚)

## 一年生に聞く 高高生活

早くも1学期が終了する。今学期が終了することから3か月が経過したことになる。1年生も高高での生活になってきたことだろう。そこで、1年生を対象にした、高高での生活についてのアンケートを行なった。



次に、「課題の量についてどう思うか」に関して、8割ほどの生徒が「多い」と回答した。よって、多くの生徒が経験したことのない大量の課題に苦しめられているようだ。

最後に、「高高は好きか嫌いか」に対して、7割の生徒が「好き」と答えた。好きな理由は、「校則が緩い」や「雰囲気が良い」、「行事が多く、楽しい」、「レベルの高い環境で学習できる」というものであった。

一方で、3名の生徒が「嫌い」と答え、嫌いな理由として、「校舎が汚い」ことや「授業進度が速い」ことなどを挙げた。

高生は忙しい。その中でも、楽しむときと頑張るとき、メリハリをつけることで、充実した高高生活を送ることができると思う。(横塚)